

正副会長の活動状況

4ヶ月を振り返って

日本弁理士会副会長 **小森 久夫**

1 はじめに

副会長になって4カ月を経過した。中島前会長が、2年間はあつと言う間に終わったとおっしゃっておられたが、確かに日の経つのは早い。考えてみれば、現在の大きな組織からすると、1年の任期というのは短く、その間に担当している政策を実のあるものにするには短すぎるという感じもする。弁理士会の中核に入ってみて、組織の質感としての「漠」と「統」に考えさせられ、政策が実行されていく過程で「時間」を日々感じているこの頃である。

2 執行役員会について

毎週、水曜日に朝10時から執行役員会がスタートする。私が見る限り、ドンキホーテ型（現実を無視し独りよがりな正義感にかられる向こう見ずな行動に出る）人物は皆無であり、逆に、ハムレット型（思索・懐疑の傾向が強く、決断、実行力に乏しい）の人物もいないと感じている。バランス感覚に優れた方が多く、私を含む各人の欠点は全体のバックアップにより補填されていき、そこにはある種の怨念や利害得失は全くなく、会長が我々に示された「情熱を持って会務にあたろう」が実践されている。少なくとも私にとっては非常に働きやすい職場である。

3 担当委員会について

(1) 中央知的財産研究所

アカデミックなことを取り扱っている唯一の専門付属機関として、ますます活発な活動を展開して頂いている。組織としても、本研究所の活動量の増大等に鑑み副所長が8人に大幅増員となった。また、本年度から、研究報告書をパテントの付属資料として広刊化し、広く外部の関係者（研究者、実務家）にも参照されるようになった。今後、さらに、時代の流れに沿って、

研究報告書全体をホームページ上に掲載する予定となっている。

中央知的財産研究所の事業は、費用対効果よりも、より高い視点から、政策効果の観点から見べきであると考えている。短期的な今後の課題は、研究テーマをいかに適切なものに設定すべきかである。研究のための研究だけにならないようにしなければならない。また、プライオリティが高くて、タイムリーなものでなくてはならない。特に、特許庁では特許法を大改正するための検討をはじめている（特許制度研究会）。この改正内容と齟齬がないように（つまり、研究成果が意味のないものにならないよう）テーマ設定をすることが必要である。

適切な研究テーマが設定されることにより、研究成果が多くの人にフィードバックされるとともに、また、研究成果が内外から高い評価を受けることを期待している。

(2) 地域知財活性化本部調整委員会

先の定期総会で通していただいた会設事務所設置規則（会令）に基づいて、青森市に第1号の会設事務所を設置するための準備（内規作成、運用手順作成、東北支部との連携）をしている。これまでに、共同支所の設置などについて種々検討してきたがうまくいかなかった経緯があるため、この会設事務所設置は絶対に実現して地域から喜ばれる活動をしていかなければならないと考えている。折しも地域経済が低迷している状況であり困難な面はあるが、本委員会の目玉の一つとして、また、本年度執行役員会の重要活動内容の一つとして、取り組んでいる。

(3) 情報企画委員会

本年度の本委員会は、実務型委員会として捉え、「検討よりは実行」を主とした活動をお願いしている。そ

のため、委員数も比較的小規模とし、且つ、ITに対するセンス、知識のある方で構成して頂いた。

第1に、Web会議システムを導入するための技術的な検討をしてもらい、本年度の予算で各支部に導入して頂く予定である。

第2に、弁理士会館の3階、2階、地下をデジタル回線等で結び、大人数を対象とした研修や講演を可能にするシステム導入を検討して頂いている。

第3に、弁理士会ホームページの会員向けページ(電子フォーラム)をリニューアルしたが、このページがプラットホームとなるように、情報掲載のための方策を検討して頂いている。

その他、本委員会は最近のIT技術を駆使してコスト低減や会務活動の効率化を目指すための活動をしていただいている。中長期的な課題としては、会員間のデジタルデバインド(情報格差)をいかに克服していくかということ、及び、規模が大きくなりつつある弁理士会全体のシステムを執行部が正確に掌握し無駄なコストを解消していくことである。

(4) 防災会議

将来必ず起きる自然災害に対するリスクマネージメントをして頂く組織として、各種の活動をして頂いている。特に、弁理士の分布が関東地域に集中している

ため、関東地域で大きな災害が発生すると、弁理士会が全く機能しなくなる可能性がある。

そこで、本年度は分散型オペレーションを可能にするマニュアル改訂をして頂く。また、災害発生時に最も重要なことは被災者の安否を確認することであるため、効果的な安否確認システムの検討をし、且つ本年度中に導入をして頂くことになっている。

今後は、地震だけではなく、新型インフルエンザや気象変動による災害等、新しく増えつつある災害を前提に対応策を検討していくことが必要になっている。これについても、今後、順次検討して頂くことになろうと思う。

4 おわりに

私の担当委員会での活動は、委員長(所長、議長)や各委員の方に恵まれてスムーズに進行している。このあと、秋の臨時総会をターゲットにしたスケジュールを念頭に、急がねばならない仕事はいくつかあるが、つかの間の夏休みをいただいて、夏の後半から再びアクセルを踏ませて頂くことになりそうだ。栄達、富貴、功名にごとくあらん、会務への貢献こそ私のスタンスである、との気持ちで頑張っていきたい。

